

令和3年度羽曳野市事務事業評価シート(令和2年度実施事業)

				事務事業コード		631-03-01	
事務事業名		世界遺産連絡会議事務事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
				連絡先		内線4481	
担当部署名		世界遺産課		予算科目	会計	1	一般会計
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち		款	2	総務費
	施策	3	歴史・文化		項	1	総務管理費
	施策の方向	1	歴史資産を活かしたまちづくり		目	5	企画費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	①羽曳野市民・藤井寺市民 ②国内外からの来訪者 ③古市古墳群					
	目的 (どうしたいか)	①古市古墳群の価値・魅力の発信と地元の誇りの醸成②来訪者の効率的・効果的な受入体制の整備③保存、活用					
	手段 (事業内容)	古市古墳群を紹介するリーフレット、ウォーキングマップなどを作成。ウォークイベントなどを実施し、魅力の発信と保存活用に取り組んでいる。もずふる応援隊の募集、運営を行っている。また、ユネスコへのモニタリングを共同で行っている。					

予算・決算額		(単位:千円)			《主な内訳(令和2年度決算)》	
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	【事業費】 もずふる応援隊登録申込書印刷、 カリジナルクリアファイル作成 276,650円 撮影機材、勾玉製作キット、除菌アルコール ウェットティッシュ購入 202,450円 ビデオカメラ、ICレコーダー、缶バッジ作成機購入 207,316円 もずふる応援隊の新規隊員への認定証、リーフレットの郵送 6,760円他 (※羽曳野市の負担は1/2) 【特定財源】	
当初予算額	事業費	500	500	475		
決算額	事業費	492	348	—		
	特定財源等	0	0	—		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	同会議開催回数	単位	回	
指標の説明	来訪者対策や地元企業や市民に対する案件などが積み重なり会議の案件や開催数が増える。			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標(見込)		3	2	4
実績		1	1	—

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	もずふる応援隊の団体隊員数(羽曳野市受付分)	単位	団体	
指標の説明	藤井寺市、羽曳野市内で活動する団体が発起人となり、世界文化遺産登録に向けた地元の機運醸成を図るため、設立された「もずふる応援隊」の団体隊員数(累積)			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標(見込)		200	200	200
実績		194	197	—

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的的事业である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価	拡充・重点化
(担当当局による総合評価の理由や課題)	
令和元年に登録された世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」は、地元はもとより人類の宝として保存・継承していく必要がある。このためには、保存を第一義としながらも、まちづくりやひとづくり等に活用していく必要がある。特に、「古市エリア」は、本市と藤井寺市にまたがって分布しているので、保存や活用、その継承については、2市の連携や協力は必須である。これらの取り組みは、行政のみならず、市民や諸団体とも連携を深めていく必要がある。	

今後の改善内容
(令和3年度以後の事業実施への改善内容)
世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」、とりわけ「古市エリア」の保存や継承を図るに当たって、その価値や魅力を広く伝えるために、2市の行政体に留まらず、市民や諸団体と一緒に、さまざまな事業に取り組む必要があると考える。既往の事業に加えて、質の高い新しい試み等を積極的に実施していくため、2市の相互の特徴を活かしながら、連携や協力体制の強化を目指す。また、2市の連携事業関連の一つである「もずふる応援隊」についても、あらゆる機会を捉えて周知を図り、その登録者数の増加を目指したい。

令和3年度羽曳野市事務事業評価シート(令和2年度実施事業)

				事務事業コード		631-03-02			
事務事業名		世界遺産保存活用会議事務事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)			
				連絡先		内線4481			
担当部署名		世界遺産課		予算科目	会計	1	一般会計		
総合基本計画	施策目標		6		歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち		款	2	総務費
	施策		3		歴史・文化		項	1	総務管理費
	施策の方向		1		歴史資産を活かしたまちづくり		目	5	企画費
事業の概要	対象 (誰を・何を)		百舌鳥・古市古墳群						
	目的 (どうしたいか)		世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」の保存・活用						
	手段 (事業内容)		大阪府、堺市、藤井寺市と羽曳野市の4者にて、遺産影響評価やモニタリングの実施方法等について検討などを行っている。また、世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」の魅力の発信に連携して取り組んでいる。						

予算・決算額		(単位:千円)			《主な内訳(令和2年度決算)》	
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	【事業費】 保存活用会議開催費、事務局運営費 786,202円 HIA翻訳、モニタリング等にかかる費用 4,917,635円 世界遺産登録1周年記念関連事業、民間連携事業、ホームページ運営管理・多言語化、ガイドブック等の作成、調査委託・プロモーション事業費 20,146,263円ほか (※羽曳野市の負担は1/8) 【特定財源】	
当初予算額	事業費	6,878	5,601	3,488		
	事業費	6,633	3,740	—		
決算額	特定財源等	0	0	—		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	同会議の開催回数	単位	回	
指標の説明	本部会議及び幹事会を実施した件数			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標(見込)		14	14	14
実績		11	14	—

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	ウェブサイトアクセス数(セッション数)	単位	回	
指標の説明	保存活用会議において作成しているウェブサイトのアクセス数			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標(見込)		200,000	800,000	800,000
実績		504,717	372,907	—

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待通りの成果が上がっている。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価	拡充・重点化
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
「百舌鳥・古市古墳群」が世界遺産に登録され、今後、保存・活用・継承に、地元4自治体が連携して取り組んでいく必要がある。 新たな開発が資産や周辺環境に及ぼす影響を評価し、マイナスの影響を及ぼすことを回避するための遺産影響評価(HIA)や、ユネスコ及び文化庁への定期報告とそのためモニタリングには、4者が実施方法等とともに検討しながら足並みをそろえて取り組まなければならない。また、「百舌鳥・古市古墳群」の価値や魅力を知らせていくための子ども向けの学習資料の作成や、首都圏へのPRなど全国からの誘客の取り組みなどとともに進めていく。 従来事務局は大阪府と堺市が担っていたが、令和2年度以降は羽曳野市、藤井寺市も対等な立場で事務局に参画することとなり、さらに能動的、積極的に参画する必要がある。	

今後の改善内容
(令和3年度以後の事業実施への改善内容)
従来事務局は主として大阪府と堺市が担っていたが、世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」の保存や活用、継承にかかる統一的な視座のもとでの運営を確保するため、令和2年度以降は羽曳野市、藤井寺市も対等な立場で事務局に参画することとなり、実施施策や事業内容について、さらに能動的、積極的に参画する必要がある。

令和3年度羽曳野市事務事業評価シート(令和2年度実施事業)

				事務事業コード		631-04-01			
事務事業名		「百舌鳥・古市古墳群」周知啓発活動事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)			
				連絡先		内線4481			
担当部署名		世界遺産課		予算科目	会計	1	一般会計		
総合基本計画	施策目標		6		歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち		款	2	総務費
	施策		3		歴史・文化		項	1	総務管理費
	施策の方向		1		歴史資産を活かしたまちづくり		目	5	企画費
事業の概要	対象 (誰を・何を)		市民ほか						
	目的 (どうしたいか)		市民への世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」の価値・魅力の普及啓発、保存への参加意欲の増進						
	手段 (事業内容)		シンポジウムの開催、各種集まりでの講演、学校への副読本の配付や古墳学習への支援などの普及啓発の取り組みや、市のイベント等でのPR、応神外濠外堤花畑での摘み取りの会などの各種イベントの開催など、あらゆる機会を通じた啓発に努める。						

予算・決算額		(単位:千円)			《主な内訳(令和2年度決算)》	
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	【事業費】 市民講座・シンポジウム講師謝礼 86,000円 消耗品費 608,738円 市民講座・シンポジウム資料記録集印刷 1,114,442円 応神天皇陵古墳外濠外堤花畑管理委託料 1,966,800円 【特定財源】 図書販売 71,600円 年賀ハガキ販売 315,000円	
当初予算額	事業費	3,090	5,839	5,623		
決算額	事業費	3,411	3,776	—		
	特定財源等	449	387	—		

活動指標	(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	講演会開催回数	単位	本
指標の説明	団体、町会などで世界遺産の話をした回数		
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標(見込)	0	20	20
実績	28	12	－

成果指標	(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	世界遺産PR動画閲覧回数	単位	回
指標の説明	羽曳野市公式YOUTUBEチャンネルにアップした動画の閲覧回数(H29～)		
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標(見込)	150,000	220,000	100,000
実績	208,818	60,986	－

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価	拡充・重点化
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
世界遺産登録が決定した、2019年ユネスコ世界遺産委員会では、地域の住民によって古墳群が1600年以上守られてきたことが高く評価され、また、追加的勧告として、資産の保存管理に地域住民がフォーマルに関わる仕組みを検討することが求められている。今後、世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」を、人類の宝として未来永劫守っていくためには、地域住民の協力が不可欠である。そのため、今後さらに、地元住民、とりわけ次代を担う子どもたちに、世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」の価値・魅力を知ってもらい、「これほど貴重なものが地元にあるのだ」ということを誇りに思ってもらうとともに、将来にわたって守っていく意欲を高めていくことが大切である。	

今後の改善内容
(令和3年度以後の事業実施への改善内容)
世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」は、市街地の中に存在し、その将来的な保存、今後のまちづくりやひとづくり等にかかる活用などは、行政単独ではなしえない。今後、地元市民はもちろんのこと、とりわけ子どもを対象とした周知や情報発信が必要と考える。現在学校に配付している副読本以外の子ども向け教材の作成や、あらゆる機会をとらえて、市民とともに世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」の価値や魅力を発信できる取り組みをさらに進めていく必要がある。

令和3年度羽曳野市事務事業評価シート(令和2年度実施事業)

				事務事業コード		631-04-02	
事務事業名		来訪者受け入れ環境整備事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
				連絡先		内線4481	
担当部署名		世界遺産課		予算科目	会計	1	一般会計
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち		款	2	総務費
	施策	3	歴史・文化		項	1	総務管理費
	施策の方向	1	歴史資産を活かしたまちづくり		目	5	企画費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	羽曳野市民・国内外からの来訪者					
	目的 (どうしたいか)	国内外からの来訪者を効果的・効率的に受け入れる。来訪者に価値や魅力を理解してもらう。					
	手段 (事業内容)	・説明看板を中国語、韓国語にも対応できるようにする。・歩行者や車での来訪者のため誘導看板を設置する。・トイレ使用やマップ配布など協力してくれる店舗にステッカーを掲示してもらい、来訪者に周知する。・峰塚公園管理棟など、既存施設の活用により、ガイダンス機能の強化を図る。					

予算・決算額		(単位:千円)			《主な内訳(令和2年度決算)》	
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	【事業費】 栗塚古墳(世界遺産構成資産)の看板作成・設置委託 175,000円 説明板多言語化委託 594,550円 【特定財源】 大阪府市町村等観光振興支援事業補助金 384,000円	
当初予算額	事業費	2,225	1,095	100		
決算額	事業費	2,094	770	—		
	特定財源等	1,046	384	—		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	OSAKA FREE WI-FI認証数		単位	数
指標の説明	峰塚公園管理棟内に設置したWi-Fiの認証数(H30.3～)			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標(見込)		30,000	23,000	30,000
実績		23,602	28,915	—

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	古墳動画視聴数		単位	回
指標の説明	応神天皇陵古墳外濠外堤 花畑前に設置した説明看板に貼付しているQRコードの動画視聴回数			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標(見込)		10,000	700	700
実績		726	262	—

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価	拡充・重点化
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
世界遺産登録を機に、来訪者の数が大きく増えたが、それに十分対応できるだけのトイレや駐車場などの便益施設の整備が、今なお不十分である。今後、来訪者数は一定落ち着いていくとは思われるが、さらに整備が必要である。現在、周辺店舗に依頼し、来訪者へのトイレの提供等を行っていた店舗にステッカーを貼付していただく取り組みを進めているが、それをさらに推進するとともに、他の有効な方策がないか検討する。また、世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」の価値や重要性を来訪者にわかりやすく理解してもらうためのガイダンス施設の整備も課題となっている。 また、とりわけ、土日などの休日に見学できる施設が不足している。現在ガイダンス施設として利用している、時とみどりの交流館や茶山テニスコート管理棟などの活用を工夫するとともに、新たなガイダンス施設を検討する。	

今後の改善内容
(令和3年度以後の事業実施への改善内容)
ガイダンス施設、トイレや休憩施設等の便益施設の設置については、世界遺産を有する自治体では必須施設とされている。 本市の現状について、上記施設の整備や設置に関しては、従前から文化庁、大阪府、学識者、あるいは市民をはじめとする諸団体より強い要望がある。 国やその他の補助金や助成金が獲得できるよう、所管部署の体制を含めて研究・検討をしていきたい。

令和3年度羽曳野市事務事業評価シート(令和2年度実施事業)

				事務事業コード		631-04-03	
事務事業名		古墳DEるるる開催事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
				連絡先		内線4481	
担当部署名		世界遺産課		予算科目	会計	1	一般会計
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち		款	2	総務費
	施策	3	歴史・文化		項	1	総務管理費
	施策の方向	1	歴史資産を活かしたまちづくり		目	5	企画費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	市民ほか					
	目的 (どうしたいか)	地域住民、特に今まで古墳や世界遺産に興味を持っていなかった方々に、古墳群の価値や魅力、そのおもしろさを知り、愛着をもってもらいきっかけづくり。					
	手段 (事業内容)	世界遺産登録の令和元年度は、企画段階からまずふる応援隊員とともに取り組み、峰塚公園を会場として実施した。四天王寺大学生によるパフォーマンス、古墳にまつわるグッズや食べ物の販売、埴輪運搬や古代衣装などの体験、小学生の古墳学習の成果の展示などを実施、約1500人の参加があった。					

予算・決算額		(単位：千円)			≪主な内訳(令和2年度決算)≫	
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	【事業費】 【特定財源】	
当初予算額	事業費	209	272	439		
決算額	事業費	327	0	－		
	特定 財源等	0	0	－		

活動指標	(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	実行委員会参加者数	単位	人数
指標の説明	実行委員会に参加した人の数		
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標(見込)	0	30	30
実績	31	22	－

成果指標	(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	イベント当日参加者数	単位	人数
指標の説明	イベント全体の参加者数		
	令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標(見込)	3,000	500	500
実績	1,500	0	—

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価	拡充・重点化
(担当部局による総合評価の理由や課題)	(令和3年度以後の事業実施への改善内容)
世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」を未来永劫守っていくためには、地元住民、とりわけ次代を担う子どもたちに、価値・魅力を伝え、守ってほしいと思ってもらうことが大切である。だが、未だ周知が不十分な状況であり、古墳に興味のない子どもたちに興味関心を持ってもらうための工夫が必要である。 本事業は、古墳関連グッズ、食品、古墳にまつわるクイズ、体験など、様々な切り口から古墳や世界遺産に興味・関心を持ってもらうことを目的とした事業であり、この課題に対応するものとして重要である。また、市単独でなく、実行委員会形式でもずぶる応援隊とともに作るイベントである点でも、住民とともに古墳群の保存活用を進めていくという方向性に合致しており、重要である。	昨年度は、コロナ禍のため開催を見合わせる結果となった。いわゆる野外イベントという形のみにとらわれないうで、世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」の「魅力」や「おもしろさ」をさまざまな情報の発信の方法を通して、いろいろな世代の人に関心をもってもらえるような取り組みを、「もずぶる応援隊」をはじめとする市民の人たちと連携を図りながら、行っていきたい。